（11）教科内容先端研究センター

①　設置の趣旨（目的）及び組織

ア　組織設置の趣旨（目的）

教科内容先端研究センターは、先端的な専門諸科学の知見に立脚し、先端技術を活用しつつ、次世代のための教科内容を研究・開発することを目的として、令和元年度 10 月１日に設置された。

イ　組織の構成及び構成員等

組織は、センター長１名及び教授 10 名、准教授２名で構成され、事務は研究連携課が担当している。

②　運営・活動の状況

学内教員３名が内田エネルギー科学振興財団の研究助成金を獲得し、令和４年２月に連続フォーラムを全３回実施した。フォーラムは、主題を「地域課題からみた学校教育の将来像」として、各回のテーマを第１回「食と農の過去と未来の新しい学びを求めて」（京都大学准教授・藤原　辰史氏）（令和４年２月２日、オンライン開催）、第２回「人新世（アントロポセン）の時代の新しい見方・考え方を求めて」（京都大学准教授・篠原　雅武氏）（令和４年２月１０日、オンライン開催）、第３回「ローカル SDGs のデザイン―地域循環共生圏の創造に向けて」（信州大学特任教授・中島　恵理氏）（令和４年２月 12 日、オンライン開催、 上越市創造行政研究所との共催）と題して開催した。

各回とも、学生、現職教員及び一般市民を対象に開催され、講師による講演会の後、トークセッションで質疑応答を行い、今後の学校教育のあり方について共通理解を得た。連続フォーラムの開催にあたり当センターの教員が、内田エネルギー科学振興財団が公募する助成事業に応募し、３件採択された。（前年度比同）また、コロナ禍における講演会の開催方法についてもオンラインで実施する等の工夫をして、感染拡大防止に努めた。

今後も外部資金を獲得できるよう助成財団へ応募し、フォーラムを開催することで、学校における教育課題に関わる質の高い連携と支援体制の整備及び全国的な先行モデルや先端的コンテンツを発信できるよう取り組む。

③　優れた点及び今後の検討課題等

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、第１、２、３回目ともに Zoom 配信実施した。また、リアルタイムに受講できない参加希望者のために、期間限定で You Tube によるオンデマンド配信を行った。今後は、引き続き教育関係機関への支援機能を果たしていくとともに、学校における教育課題に関わる質の高い連携と支援体制の整備及び全国的な先行モデルや先端的コンテンツを発信することのできる体制の整備を検討する。